

## 部屋

ぼんやりとした意識の向こう側  
屋根の上に空が腰掛けている

何を眺めているのか・・・  
遠く、小さかった頃の眼差しで

私は部屋を閉じている  
遮るためではなく  
拒むためではなく

私は部屋を閉じている  
この身に享けるために  
この掌に授かるために

ひと、かぜ、まち

かつては  
むかしは  
そして、今もあるものを  
塗り潰された、その絵具の下にあるものを

私を散々に引き摺りまわしてきた  
社会というもの・・・  
やれ家族だ、組織だ、仲間だと  
帰属を当然のものとする 社会  
問題、解決、要求、回答だと  
声高に反応を要求する 社会

扉の外、窓の外、壁の外  
私自身の部屋に持ち込んだもの  
持ち込みつづけてきたもの  
それらは今も在る  
けれども、もう静かに黙している

ガラス窓の外  
庭をそっと横切る猫

私は部屋を閉じている  
私そのものが部屋となっている

(2006.12.17)